



新らしい年を迎えて

及川ふみ

こころ、二年間の幼児の教育の問題として、大きく取りあげられたものうちに、幼児の教育内容の研究、指導方法の研究などの問題が考えられる。前者は主として、幼児の教育の基本的なものであり、本質的なものでもある。後者はその基本的な問題をいかに指導してその成果をあげていくかという、実際的な指導の方法の問題である。

この二つの問題は、幼児の教育の実際にあたっているものとして、共に重要な研究の焦点であることはいうまでもない。

幼児の教育内容の研究としては、さきに文部省の初等教育課においても、幼稚園教育内容として、幼稚園教育関係者の研究会開催の度毎に、研究協議事項として検討されていた。近くその成案が関係者の前に公示されることであって、その日の一日も早きを鶴首しているわけである。

又昨夏、私共お茶の水女子大学附属幼稚園内幼児教育研究会においても、研究同人が相よって、これ等の諸問題について日頃語らいあっているものを小冊子「幼児の教育内容とその指導」としてまとめてその試案を発表した。

その他、全国各地に開催された、講習会や、講演会、研究会表会などの主題も、多くはこれ等の問題によって満されていた様な感じが強かったようにおもわれる。

さらに昭和三十一年度より、幼児指導要録の改訂がこの頃文部省より公示された。その評価する教育内容に対しても、健康、社会、言語、自然、音楽リズム、絵画製作、と明示された。小、中、高、大学等の学校系列の中で最もすべての点において歩みのおそい幼稚園もここで一応その教育内容や、その指導の方法などについても一般的な軌道が敷設されたかの様な感がさせられてきたことは、幼児教育の上に安定感がつくられた。

そこで今後の問題は何であろうかということである。そこには又新しい種々な問題もおこってくるであろうし、又今日までの問題のうちにあっても、残されたいくつかのものもあるのであらう。

昨夏、私は北海道を始め、東北、北陸の各地の幼稚園の実績をみる機会をもった。その際の最も大きい所感は、この幼稚園の教育内容と、その指導の実際に対し、二つの点を痛感させら

れたことである。

その一つは、一般的な幼児の教育内容の基本的な理念の普及徹底であること、他の一つは、地域的によって教育内容の取扱い方法の研究という点であった。

かりに教育内容のうち、社会の取扱い方法という点からいってみると、家庭環境によつては著しく、社会を重点的に教育計画の中心として取扱わなくてはならない場合がある。例えば農村などの幼稚園では、幼児たちは入園前の生活、ことに家庭環境は社会性を育てていく好機が誠に乏しいのである。農家の普通状態として、隣接の家屋は少しいし、隣近所の交友関係も亦少いのである。又家人ことに母親は農事多忙にして、朝は早く、夜おそくまで外働が多く、子どもたちと直接お話する時間も少く、したがって愛情を充分に受けられないという、子どもの満されない気持からおこる安定感の欠如という望ましくない状態にあるものが多い。これ等の幼児が幼稚園に入園してくると先生や、友だちになかなか親しまない場合が多い。幼稚園に来ても、言葉をかわすこともなく、友人と遊ぶこともなく、保育室内にも入らない。時にはいつの間にか幼稚園から姿を消して家に帰ってしまう。先生はこれに気づくと、自転車で迎えに出向くということになる。中には家に迎えにいってもいないで母親のいる野良までも自転車を走らせなければならぬ時もあったとある先生は話されたことである。受持の先生の努力がようやくむくいられて、先生と親しくなると、今度は自分で先生を独占しようとする。先生と手をつないで、はなさない、

手をはなすとスカートをつかむという工合で片時も先生からはなれなくなる。他の子どもはこれを見て不満でたまらず、けんかになる。こんなことは入園の四月のはじめより七月の終り頃までもつづいていることである。

母親から受けた愛情の欠如の不満の根本問題から始めて、対人関係として、先生に対して、又友だちに対しての不安定な気持から、幼稚園全体の雰囲気は何となくおちつきと親しみがもたれずにいる、これ等の幼児の指導については、先生の相当の努力がはらわれなくてはならない。この類の幼児の型は多少はどここの幼稚園にもみられる点ではあるが、農村にある幼稚園の一部では特別に受持の先生の悩みでもあるのは事実である。この場合など教育内容のうちとりわけ社会面だけ特に最初に大きく取り上げて基本的な問題の解決をはからねばならない。そして時としては、他の教育内容も副的であったり、方便的であったりすることもやむを得ないことにもなるのではなからうかと思われる。又幼稚園の施設、設備の上でも、幼児の定員数との関係上、教育内容の指導の面で、又幾多の困難とたたかっている実状もきき及んだことである。

しかしいづれの困難の場合にあたって、これをいかに解決しようとする努力されつつ、明るい希望をもちつづけられていることにも、その力強さに大きなよろこびが感じられた。

年新しくなった。昭和三十一年の新春にあたり、新しく出されるであろう問題に、又残された問題に、共に事新らしくとりくんで、幼児教育進展にはげみたいものである。